広報
とうきょう消防
第6号
TOKYO FIRE NEWS
平成24年8月26日発行（年4回発行）　東京消防庁企画調整部広報課　〒100-8119 東京都千代田区大手町1−3−5　電話：03−3212−2111（代表）　ホームページ：http://www.tfd.metro.tokyo.jp

主な掲載内容
＜2・3面＞地震その時 火災を防ぐために　地域の防災力を高める！［防災訓練／身近な防災用具を確認しよう］
＜4面＞地震に備えて室内を安全に！　9月9日は救急の日　防火標語・救急標語募集
Miniコラム　プレゼントコーナー

地震による火災 あなたは何ができますか
― 意識から行動へ ―

阪神・淡路大震災　ー神戸市内自治会役員の声ー

火の手が迫り、なす術もなくただ燃え広がる炎を眺めているだけでした。

しかし、このままではいけない。倒壊した家屋の下には、まだ埋まっている人もいます。何とかしなければ。そんな気持ちが町内の住民の中に広がり、「自分たちでこの火事を何とかしよう」とみんなの気持ちが一つになったようでした。

水道管も被害を受けて、消火栓をひねっても水は出ませんでした。誰かの声で近くに防火水槽があることに気づき、重いふたをこじ開けると水が入っていました。住民がそれぞれバケツなどを持って集まり、ロープの先にバケツをくくりつけ、一人が中の水をすくい次々にバケツを渡していったのが、やがてバケツリレーとなったのでした。

最初は5～6人で始めた作業も最後は総勢200人ほどになりました。その中には既に自宅を焼け出された人や町会とは縁もゆかりもない人もいて力を貸してくれました。

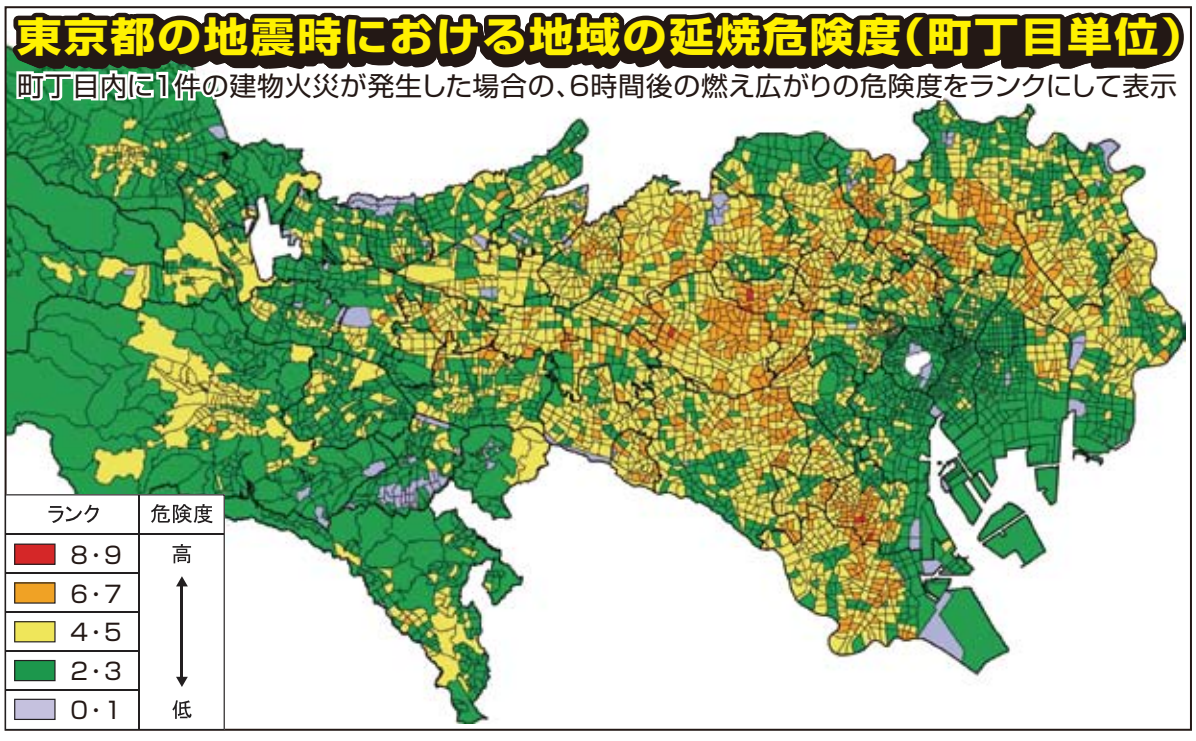
こうした人と人の結びつきがあったからこそ、非常に初歩的なバケツリレーであの大火に立ち向かうことができたのだと思います。

（財団法人 日本消防協会「阪神・淡路大震災誌」災害現場からの声抜粋要約）

首都直下地震　東京では…

首都東京では、首都直下地震や東海地震などの発生が危惧されています。東京湾北部地震（M7.3）が発生した場合は、最大約9,700人の死者が発生する可能性があり、その4割以上が火災により亡くなると想定されています。

また、東京消防庁の算出による、「地震時における地域の延焼危険度」（右図）※では、ランクが高い地域ほど、燃え広がる危険度が高く、長時間燃え続ける可能性があります。



延焼する危険が高い理由としては、幅の広い道路が少ないことや木造住宅などの密集地域が大きく広がっていることがあげられます。

まずは火災を起こさないことが大事ですが、もし火が出た場合は、住民のみなさんが協力して、火が小さいうちに素早く初期消火を行うことで、被害を最小限にとどめることができます。そのためには、地域で行う防災訓練がとても大切です。

※東京都の地震時における地域別延焼危険度測定(第8回)平成24年3月<東京消防庁>より。詳しくは東京消防庁ホームページ「防災トピックス」に掲載しています。